



ISIF2020 International Student Innovation Forum @online

バーチャルな空間で リアルに出会い、リアルに学ぶ 生徒と大人との対話で 教育のエコシステムを育てる

学校の中で生徒が決めることってどれくらいある？

地域コミュニティと結びつく活動はある？

校舎の中に、創造性を刺激してくれる場所ってある？

学校って、将来のお金のかせぎ方について教えてくれる？

学校って、仕事の「つくり方」教えてくれる？

学校のカリキュラムは社会の動きについていけている？

精神的な健康は保たれている？

勉強と、友達との時間、家族の時間で、バランスとれている？

学校って、社会に出る前の「準備」を出すところ？ 学校自体が社会じゃないの？

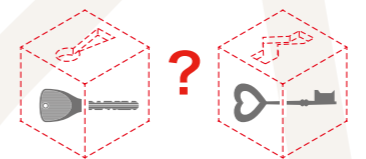
次世代の学校の形って、何がどう変わるんだろう？

毎日の学習の中で、「学びがい」を感じられることってある？

新型コロナウイルス拡大防止のため、ウェブミーティングの形でフォーラムを開催します。時間と空間を超えた仲間との出会いは、対面とは異なる新しい出会いとなります。そこから生まれる「学び」は、決して架空ではない、本物の学びとなるはずです。

生徒と教師、行政、研究者、企業などが、教育をテーマに「フラット」に話し合います。本当に学び甲斐のある、教え甲斐のある、社会に必要な学校とはなにか、海外の人たちとともに、未来の学校をデザインします。

社会を変革するための能力(コンピテンシー)とは何でしょうか。それはどのような教育によって、身につけさせることができるのでしょうか。そしてその教育は、どのような教師によってもたらされるのでしょうか。生徒の声と教師の声が響き合う広場をつくりましょう。



生徒と教師の心の鍵を開ける鍵は……

エージェンシー 主体性を共振させよう！

OECD が提起する教育の新しい枠組み「**OECD ラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030**」では、「**生徒の Agency**」と彼らを取り巻く人々の「**共同 Agency**」の姿が描き出されつつあります。

私たちは何のために学ぶのか、どこに向かって成長すべきなのでしょう。ラーニングコンパスの指し示す先にあるのは、**個人の Well-being と社会の Well-being** です。国や民族、老若男女、宗教、貧富によって Well-being の形は異なりますが、異質な人々が語り合うことで、ゴールまでの距離を短くすることができます。「**学びあうこと**」は「**育ちあうこと**」であり、Well-being を現実にも近づけることです。
生徒国際イノベーションフォーラム 2020 は、学校の Well-being をみんなで語り合い、教育のイノベーションには何が必要なのかを考え、**未来の学校**を描き出すことが目的です。

世界は今、**新型コロナウイルス (COVID-19)** の災禍の中にあり、それまで「当たり前」に通っていた学校から投げ出されてしまった生徒たちがあふれています。学校の先生たちは経験したことのない混乱にあえいでいます。けれども今が、100年に1度の「学校の当たり前」を考えるチャンス、**教育のイノベーションのチャンス**であることも事実です。

生徒国際イノベーションフォーラム 2020 は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、8月から9月にかけて **Web 上で開催**します。中心となるライブトークは8月11日と12日におこないます。

バーチャルな空間でも、**リアルに出会い、リアルに学びましょう！** 生徒と大人の対話で、社会とともに学び、育つ、**教育のエコシステム**を育てましょう！ 生徒国際イノベーションフォーラム 2020 で、互いの **Agency** を共振させましょう！

どうぞふるって、ご参加下さい。

学校は環境問題の改善に貢献している？

学校は安心して過ごせる場所になっている？

2011年、日本の東北地方をマグニチュード9の地震が襲い、巨大津波が街のみ込み、原子力発電所が爆発し、地域一帯を放射能で汚染しました。人々の日常は一瞬にして破壊され、失ったものの余りの多さに人々は絶望しました。その中で、子どもや若者たちの元気な姿は大人たちに希望を与え、被災地に光をもたらしました。

2012年、国際教育プロジェクト「**OECD 東北スクール**」が始まり、約100人の東北の若者たちは、被災地の復興をめざして、立ちあがりました。約3年にわたる格闘と挑戦の末に、若者たちはパリ・エッフェル塔の前から、東北と自分たちの歩みを世界に向けて語り、15万人もの人々がこれを講えました。

若者たちの成長が世界を変える、その事実は世界に影響を与えました。OECD は自ら定めた**キーコンピテンシーの再定義**に乗り出しました。日本政府は、**ナショナルカリキュラムの改定に着手**しました。OECD 東北スクールは、**地方創生イノベーションスクール 2030** に変わり、日本各地に広がり現在も続いています。

社会は、今まさに **VUCA**、不安定で、不確実で、複雑で、曖昧な時代に突入しつつあります。「これさえ知っていればなんとかなる」「これまでのやり方できつとうまくいく」という時代は確実に終わりました。**社会の変化**は激しさを増し、それに対して学校は大きく後れをとり、ギャップは広がるばかりです。

生徒国際イノベーションフォーラム 2017 では、8カ国、400名の高校生徒教師が日本に集い、交流を深め、お互いの実践に学び、これからの教育の在り方について議論しました。その想いは「**生徒共同宣言 Our Voice in 2017**」にまとめられました。地域の現実から学ぶこと、様々な人々と協働すること、新しい教育の大切さが述べられています。

VUCA

「不安定」、「不確実」、「複雑」、「曖昧」のそれぞれ英語の頭文字をつないだもので、現代を表現する言葉です。平和な社会に突然新型コロナウイルスが現れ、行動が制限され、先行きが読めず、社会全体が不安に覆われるような状況がまさにVUCAということが出来ます。すべての人々はVUCA社会の中に生きています。

ポストコロナ

今なお収まらない新型コロナウイルス感染症は、健康問題や生活の様式の変化に留まらず、広く文明のあり方そのものを考え直す契機となっています。これまで当たり前だったことが否定され、一方でインターネットを使った新しいコミュニケーションが一気に広がっています。至る所で、コロナ後の世界の可能性の試行錯誤が始まっています。

イノベーション

物事や社会が問題に直面しているとき、「改善」が求められますが、それでもうまくいかない場合は「新しい考え方で一から作り直す」ことも必要となります。それを「イノベーション」と呼び、常識にとらわれない、自由な考えから生まれます。私たちのプロジェクトは一貫してこのイノベーションをめざしています。

Education2030

私たちの最初のプロジェクト「OECD東北スクール」の成功が一つのきっかけとなって生まれたOECDのプロジェクト。社会の変化に合わせて教育で身につけさせる「能力」を定義し直すものです。2019年に「ラーニング・コンパス」にまとめ上げ、世界中の声を拾い集め、新しい教育の形を追究しています。

生徒共同宣言

生徒国際イノベーションフォーラム2017の成果としてとりまとめたもので、「Our Voice in 2017」のタイトルがつけられています。未来に生きる生徒自身の望む教育の在り方として、地域の現実から学ぶこと、国際間で交流すること、様々な人々と協働すること、など、新しい経験にチャレンジする教育の大切さが述べられています。

学びの羅針盤

OECDキーコンピテンシーを再定義するEducation2030プロジェクトの新しい教育の枠組みで、「OECDラーニング・コンパス2030」が正式名です。教育の未来の向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みで、私たちの望む未来(Future We Want)に向けた方向性を示すとしています。

Well-being

「OECD学びの羅針盤2019」が指し示すのが、個人及び社会の「よりよいあり方(Well-being)」です。具体的には仕事、教育、安全など11に整理(表紙参照)されており、今回のISIF2020では、「学校のWell-being」について、みんなで考えます。Education2030プロジェクトでは、世界各国の生徒たちに「私たちが望む未来Future We Want」を語ってもらい、ビデオにアップしています。

エージェンシー

「OECD学びの羅針盤2019」の中心に位置する概念で、変革を起こすために目標を設定し、ふり返りながら責任ある行動をとる能力とされています。一般的には「主体性」と呼ばれていますが、バラバラな能力の一つではなく、バラバラな能力を貫く「軸」のようなもので、「生徒エージェンシー」や「教師エージェンシー」、さらには「共同エージェンシー」が求められています。

教育のエコシステム

教育の活動は、ブロックをつなぎ合わせるようなものではなく、生態系(エコシステム)のように、植物が土から栄養を吸って生長し、それを動物が食べ……というように、すべてがつながり合った有機的なものです。全体をいいものにするには、関係する多様なステークホルダーの理解や努力が必要です。

未来の学校を考えるためのキーワード